

クオリティ傾向

～去年のメタリック・ストラクチャーはもう当たり前。今年はそれに加え「一遍通りではないひと工夫」を加味。

<ひと工夫したストラクチャー>

フクレ織り、高温、変形加工、プリント加工、キルト、シワ加工
スムッキングなどで今年も表情はかなり豊か、又、アップリケや手刺繍など
去年よりも一層凝った演出



<ブライト・メタリック系>

金糸や銀、銅、若プリントもさらにパワーアップ (中層地にシルバープリント)
ステレンスヤーン使い、ルーレックスなど。



<空気感・透け感・オープンワーク>

透かし素材に立体的な構造をほどこしたモノが魅力的
レーザーカットやロック加工で動きを出したモノなど…。大きな角目ニット。
モチーフ一部残しカットなど、前に倒した部分の影がモチーフに



<毛足感>

フロントカットなどの後加工や編み込み風のモノまでバリエーション豊富。



<パッチワーク/異素材構成>

透け感のある素材やジャカード、無地コットンなどバランス感覚のみで
つなくおもしろさのクオリティバリエーション
決して子供っぽくないセンスのある新しい斬新さ
異素材組合せ組織もあり。織糸で変化をつけるケースメント。



スタイル傾向 - ① (Window周辺・寝装)

■Window周辺

タッセル、レールとともに、光ものや、形の細工が多く見られる。また、上部が長めのスタイルでギャザーなどの凝った細工が見られた。
カフェカーテンのくくりで、新しくアタッチメント使用の間仕切りが登場。

●メタルの細いレール



●上部長めのギャザー使い



●光ものタッセル、細にも細工



●レールのぎばしも多様化



●アタッチメントで取り付ける変わりブラインド



■寝装

スタイル自体は目立った変化はないが、ストラクチャーに凝ったものが時折見られた。
絞り調や、スムッキングなど。

